



◆図書館だより◆

2019年2月6日 No320

# なんだりかんだり



"NANDARI-KANDARI" means "Anything". In other words we call it "森羅万象".

日本大学第二学園図書館

## ◎はじめに

いよいよ2月に入り、第3学期も中盤。初午、節分、立春と足早に過ぎて、学園にとっても大事な受験シーズンを迎えました。皆さんも少し振り返ってみると、入試の頃のいろいろな思い出がよみがえる事と思います。いつまでも初心を忘れる事なく、自己研鑽に励んでください。梅の花もほころび、何となく吹く風にも春らしい香りを感じる頃となりましたが、まだまだ寒い日が続きますので、体調を崩さないよう、ご自愛ください。

さて、相撲の世界で『三年後の稽古』という言葉があります。日々の地道な稽古は無駄のように思うかも知れないが、後々の出世に関わるもので、決して侮ってはならない、今の稽古こそがとても大切であるという意味です。将来の夢や希望の実現、また目標の達成のためにも、日々の積み重ねを大切にしたいものです。

## 初春の郵便受けに道拓け<sup>ひら</sup>[耕]

### 🐘 そうさんの独り言 🐘

昨年あたりから、諸行事や催し物等に「平成最後の〇〇」と最後を強調して言われる事が増えました。耳にしますと何か感慨深いものが感じられます。『平成』は史記(中国の歴史書)からの「内『平』かに外『成』る」と書経(中国の古典・五経の一つ)からの「地『平』かに天『成』る」という言葉から『平成』と名付けられたそうです。「内外、天地共に平和が達成される」との意味で、とりわけ平和を尊いものとする強い思いが込められていると思います。先頃、政府は天皇陛下の退位日を今年の4月30日とし、皇太子様が翌日5月1日に新天皇に即位することを決定しました。これにより、新しい元号は5月1日からとなります。大化の改新(645年)の時に『大化』が用いられたのを始に、231(一説では247)も続いた元号ですが、次は何になるのかが気になる今日この頃です。

※ この紙面は学園のホームページからもご覧いただけます。<http://www.nichidai2.ac.jp/>

## —図書館とわたしたち—

### ～入場料制の本屋さん?～

昨年12月11日に東京、六本木の青山ブックセンター跡地に、入場料1500円を支払う書店「文喫」(ぶんきつ)が開店しました。出版取次大手の日本出版販売(日販)が立ち上げ、国内初の試みとして、料金は美術展や映画と同じ価格帯を意識したそうです。「本と出会うための本屋」がコンセプトで、出版不況の最中、本の販売以外の新たなビジネスモデルを探るべく、「本を選ぶ時間こそが贅沢で豊かな時間であるべき」という思いから入場料を設定し、付加価値のある空間を目指すとのこと。

お店の書棚には約3万冊の本が並び、マイナーな本が品揃えの中心となっていて、各分野1タイトルにつき1冊のみを置き、本の検索機も設置せず、あえてバラバラに並べることで、偶発的な本との出会いを仕掛けているそうです。

## 図書館から

☆2月20日(水)をもって、本年度の図書最終貸出日とします。  
それに伴い、図書の最終返却日は2月27日(水)となります。

☆3月からは、年度末の諸作業(蔵書点検、図書館システムの点検、新年度移行に伴う学年更新ほか)実施のため、図書の貸出し、また年度末休業日・春季休業日中の図書の貸出しは致しませんので、注意してください。

☆上記、諸作業実施のため、合わせて年度末休業日・春季休業日中の図書館の開館業務も致しませんので、皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

☆現在、図書の貸出しを受けている人は、出来るだけ速やかに図書を返却するようお願いします。

☆年度末・春季休業日中の図書館2階「学習室」の開室日、開室時間等の詳細については、後刻、学校長よりお知らせがあります。